



国際会長 (IP) Kim Sang-chaе (Korea)

“Y's Men with the World” 「世界とともにワイズメン」

アジア太平洋地域会長 (AP) 大野 勉 (神戸ポート)

“Make a difference beyond the 100th”

「100年を越えて変革しよう」

東日本区理事 (RD) 大久保 知宏 (宇都宮)

「私たちは次の世代のために何ができるか」

” Think for the next generation”

湘南・沖縄部部長 (DG) 若木 一美 (横浜とつか)

「咲かそう 人の輪〜明るく・楽しく・元気よく〜」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「今こそ『すべての人を一つにして下さい』(ヨハネ 17 章)を覚え、平和への行動を！」

“Now, keeping 『All be one with each other』 (John 17), Act for peace!”

会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 英幸

<今月の聖句>

秋元 美晴

恐れるな、私があなたと共にいる。
たじろぐな、私があなたの神である。

(イザヤ書 41 章 10 節)

今月のひとこと

「戦争回避学のすすめ」

大高 治



ウクライナと言えば穀倉地帯、大横綱大鵬のお父さんや棒高跳の伝説的名選手セルゲイ・ブブカの生国、そしてチェルノブイリの原発事故程度の知識しかありませんでした。ブブカ選手とは欧州出張の折り、同じ飛行機に乗合せたことがあります。現在 58 歳、別名「鳥人」のように飛んで砲弾やミサイルを潜り抜けて欲しい。

ウクライナの歴史を 10 秒で言い表すジョークがありました。「私はオーストリアで生まれ、ポーランドで育ち、ハンガリーの学校に行き、ソ連で就職し、今ウクライナに住んでいる」「大変な人生でしたね」「いや、私は生まれてから今ま

で一度もこの街を出たことがない」と、ウクライナ出身で日本在住のアンドリー・ナザレンコ氏の著書『自由を守る戦い 日本よ、ウクライナの轍(てつ)を踏むな!』の一節にあるそうです。日本でも同じ所に住んでいても住所が変わります。市町村合併です。大きな違いです。

ロシアのウクライナ侵攻から 36 日目の 4 月 1 日、国外で活躍しているロシア人の有名な作家や芸術家が「今ウクライナで起っているロシアの暴挙に責任を感じる」との声明を出し、別の著名人も「チャーホフ、トルストイ、ゴーキーが真のロシア」だと述べています。一方、プーチン大統領は 4 月 12 日「ウクライナで起きていることは疑いなく悲劇だ。だが他に選択肢はなかった」と言い、2 月 24 日攻撃開始宣言の演説でも同じように「国民を守るには他に方法がなかった」と述べていました。

親ロシア派の組織が占拠しているウクライナ東部を、NATO に支援されたウクライナのネオナチ勢力から開放するという「正当防衛策」を 1 年前から練って来たという。その「西の悪から東を救う」手立てが、自ら呼ぶ同胞に対する砲撃とミサイル攻撃で街々を破壊し殺戮を続けています。更に戦術核もちらつかせて。

帝政ロシアに続くソ連に良いイメージはありません。日清戦争後の三国干渉、壮絶な日露戦争、日ソ不可侵条約を破って満州、千島列島への侵攻、4 島を奪い、武装解除後 57 万人もの日本兵のシベリア抑留。ウクライナでの暴挙や国際法違反の行為は、77 年前の満州での暴挙と略奪と何も変わっていない。

日本側の情報の多くは西側からのもので、ロシアや近隣の国で活躍して来た外交官やロシアを研究して来た大学教授によるロシア感は大分異なります。

<2022年4月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メン 8名 メネット 1名 コメント 0名 ビジター 5名 ゲスト 2名 合計 16名	75 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

<5月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
12	木	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
26	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
28	土	10:00	部研修会	舞岡地区センター
28	土	14:00	横浜 Y 会員総会	ハイブリッド

1. 旧ソ連邦の国々は未だ戦国時代。
2. ロシアのウクライナ侵攻は真珠湾攻撃をせざるを得なかった日本に似ている。
3. ロシアを信用してはいけない、ロシア以外はすべて敵とみる。
4. ロシアには使命がある。「自分たちは偉大な民族。責任がある。周りを導かなければならない」それは帝政ロシア、共産党のソ連、現在のロシアでも変わっていない。
5. ロシアの大国主義は当然。この思いをプーチンとその支持者が代表し、この責任と使命の下で、「ウクライナを解放」しようとしている。

爆撃されたマンションや製鉄所の巨大な地下シェルターで多くのウクライナ人が暮らしている。NATO 加盟を検討中のフィンランドの地下鉄の駅も巨大なシェルターだと聞く。西側ではそのような備えが必要だとは驚きです。「日ロ戦争後帝政ロシアの国力が弱まり、独立出来た」とフィンランドは親日的です。早く安全を確保して欲しい。

2年前新型コロナウイルス感染が拡大して行く様子を毎時のニュースで追ったように、刻々と拡大するウクライナの惨状を報じるTVに釘付けになり、メルマガを読み、Youtubeで専門家や識者の解説に耳を傾けて来ました。大学や防衛研究所等々には兵器や戦略戦術、情報収集・分析の専門家がいて頼もしさを感じています。

3月に入ると侵攻は増々拡大。77年前、円を描くように爆撃して10万人の逃げ場を塞いでから、焼夷弾を落として行った3月10日の東京大空襲の話、11年前の3月11日の東日本大震災のことを思い出します。3月は何と大きな惨事が起こることか。「ウクライナ侵攻、21世紀にこんなことが起って良いのか」インテリジェンスの活躍や衛星からの戦車の動きで、侵攻が近いことが察せられたが、国連事務総長は動きませんでした。外交官の究極の役割は「戦争回避」にあると、日本の元外交の高官は述べています。

対戦車ミサイルのジャンベルが活躍し、双方の兵器は大型化し、電子制御で精度を増している。災害観測が主たる用途と思っていたドローンが新鋭のスターリンクとコネクトし、新たな兵器になって来た。更にSNSの活用、サイバー攻撃にハッカー集団も加わり、貿易戦争、金融戦争、経済封鎖とあらゆる手段で制約無く戦う「超限戦」(中国軍の大佐2名による戦略研究の著)が始まったようだ。トランプ大統領が連発した「フェイク」も情報戦での常用語になった。

戦闘技術が進んでいる。今後は日本やドイツばかりでなく多くの国が防衛・軍備の拡大に進む。防衛力の強化は戦争回避策の一つではあるが、更に数歩飛んで、過去の戦争を表面からだけでなく諜報・工作員の活動という裏面も分析して、いかに戦争を回避するかを研究する「戦争回避学」を生み、地政学も戦争回避に活かす学問にして欲しい。

主要国の国会で支援を訴えたゼレンスキー大統領は、アメリカではアルカイダの9.11と共に真珠湾攻撃に言及、喝采を浴びた。だが、日本がこの攻撃に至るまでの裏事情、アメリカに深く食い込んだソ連の諜報員の活動や日本でのゾルゲの暗略を大統領は知らなかったようだ。

小国が独立を維持することは易しいことではありません。独立を達成した国の忍耐、勇気と知力は大偉大です。バルト3国(リトアニア、ラトビア、エストニア)はソ連の全盛時代に東欧からの移民の多いChicagoに大使館の看板を掛け、国旗を掲げていた。「独立」を誓っていたのです。ウクライナは人口4千万人、小国ではないが、独立を諦めずに、現在もロシア軍と果敢に「自由を守る戦い」をしている。

ウクライナはソ連邦崩壊まで核開発の拠点でした。アメリカとロシアの進言により、核兵器は全部ロシアに移管したのです。少しでも核を残しておけば、今日の悲劇は無かつたろうにという意見がある。中小国でも核を持てば大国と肩を並べられるとう論理、危険です。戦争を無くす方策は昔から種々上げられています。「平和を望むなら、戦争を準備せよ」、「平和を準備すると、戦争を招く」、「戦争は古来防衛力が弱い時に起る」いつでも戦争が出来る状態にして「戦争を起こしたら痛い目に遭うぞ」と思わせることだけでは、際限のない軍拡、超限戦の拡大になる。これを超える英知に期待する以上に今は、早く10兆円以上の復旧資金捻出の取組を見たい。更に願いを込めれば、人間の願望と英知が科学技術を生み発展させて来ました。これらが戦争に使われ、戦争がまた科学技術を発展させ、戦争を大規模にかつ残酷にしています。この循環を早く断ち切りたいものです。たとえ科学技術の進歩が遅れても。

<4月第一例会報告>

伊藤 誠彦

日時 : 4月14日(木) 18:30~19:40

開催方法 : ハイブリッド例会

出席者 : 青木、秋元、大高、古賀、佐竹、古田(横浜中央Y)
伊藤メン・メネ、齋藤(Zoom)

ビジター: 鈴木茂(横浜つづき)、久保田貞視(東京八王子)、
古屋博規(仙台青葉城)、福島貴志、生駒晴美(熊本スピリット)

ゲスト：裴安(卓話者)、志賀里美(秋元ワイズご友人)

例会は秋元ワイズの司会によりほぼ定刻に開始。古賀会長による挨拶に続いて、やや調子はずれのワイズソングに続き、ワイズの信条を唱和、ゲスト、ビジター紹介の後、聖句朗読と解説があった。

今例会の卓話は、「横浜 YMCA と横浜ワイズメンズクラブの更なる連携強化の模索 第4弾」として、かながわ外国人住まいサポートセンター(以下、「すまセン」)理事長の裴安(ペイアン)さんをお招きして「ともに生きる地域を目指して～住まいサポートセンターの活動と実践から～」と題するお話し。

1998年に県知事の諮問機関として設置された「外国籍県民かながわ会議」で、住宅問題が重要課題として取り上げられ、知事に提出された最終報告に、外国籍県民の居住支援について、「言葉や生活習慣の違いから起こるトラブルに対応するため、外国人への賃貸住宅の紹介や多言語による情報提供・苦情相談体制を整備する」という提言が盛り込まれました。

その結果、不動産業界、外国人支援 NGO・NPO の他、国土交通省、神奈川県、横浜市等の行政が協力し、2001年3月、多言語で外国籍県民の住まい探しをサポートする「すまセン」が設立され、横浜中央 YMCA2階に相談窓口が開設されました。

「すまセン」の活動内容は①多言語による家探し、②言葉・生活習慣の違いによるトラブル解消のアドバイスが中心ですが、「すまセン」を訪れる人は多岐に渡ります。様々な事情を抱えた外国人、生活困窮者、ホームレスなど住居を失った人など・・・

外国人が日本に住むようになった理由は時代により異なりますが、「外国人問題」とは、外国人が住民として当然の権利を享受できないことです。

「すまセン」では問題解決者ではなく、相談者の立場で話を聞き、寄り添いながら問題を整理し、解決に向けて共に考えながらアドバイスし、スタッフが「住まい」の域を超えて、「暮らし」全体を支えていることが強調された。



卓話の後にはビジネス。今後の行事予定の確認、5月例会の卓話は昨年の11月例会以来継続してきた横浜 YMCA と横浜ワイズメンズクラブの連携強化シリーズの第5弾(最終回)にふさわしい卓話者をお招きすることを確認。6月例会は7月総会の準備例会とすることなどを確認した。

『次期クラブ会長・部役員研修会報告(後半)』

(当報告は、紙面スペースの制約上ブリテン4月号に前半部分だけを掲載した報告の後半部分です)

(2) 研修Ⅱ

①地域奉仕・YMACA サービス事業方針(次期地域奉仕・YMACA 事業主任 小山久恵氏)

(事業主題)『つなげていこうワイズの心』

②会員増強事業方針(次期会員増強事業主任 佐藤節子氏)

(事業主題)『楽しく会員増強の「タスキ」をつなげよう!』

③国際・交流事業方針(次期国際・交流事業主任 利根川太郎氏)

(事業主題)『未来に向けて、世界に繋がり奉仕活動を活性化しよう』

④ユース事業方針(次期ユース事業主任 衣笠輝夫氏)

(事業主題)『次世代への橋渡し』

(3) 研修Ⅲ

・『実務研修』では、会計の職務、事務手続きの説明、ワイズ基金のアピールがあった。

(4) 研修Ⅳ・分科会

①『待ったなし。会員増強をどうすすめるのか?』～Change!2022 12 尽き活動期限後をにらみ今こそ行動を～(提起 栗本治郎)

②『YMCA を支え地域に根差す』～SDGs ユースアクションから始まる新たな YMCA 協働～(提起 山田公平)

③『コロナを超えてやめられない楽しいクラブづくり』～世界に地域に仲間と隣人と共に～法人化はだてじゃない(提起 深尾香子)

・分科会に分かれてのブレイクアウトセッションが行われ、大変有意義な意見交換の場として、短い時間であったがワイズの方々の貴重な交流の時となった。

★閉会の挨拶(佐藤次期理事)と閉会点鐘(大久保理事)で午後4時に閉会した。

今回の研修会において、次期理事の佐藤重良氏の『理事主題』のご説明とそれぞれの役員の方々のお考えを加え、特に『YMCA と協働して YMCA を支え地域に根差す』との山田公平氏の提起は、今年度の横浜クラブのクラブ方針である『YMCA と共に地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。その具体的な取り組みとして、横浜 YMCA 専門学校で学ぶ外国人留学生在が新型コロナウイルスの影響を受け、学費、生活などの困窮による不安にある学生を支援していく』との活動にさらなる一つの視座となった。

『大阪長野クラブ創立45周年記念例会出席報告』

古田 和彦



大阪長野クラブはわがクラブにとって唯一の DBC (Domestic Brother Club) である。1993年に締結しているから29年間兄弟関係にある。締結以来、ブリテンやクリスマスでのメッセージ・プレゼント交換など地道に交流を続けてきた。また、コロナ禍のためわがクラブが Zoom 例会を開いたことで、同クラブ白井春夫ワイ

ズが参加されることも起きた。

その大阪長野クラブがチャーター45周年（1977年3月21日チャーター）を迎えるにあたり DBC であるわがクラブにご案内をいただいた。古賀会長の体調が万全でないので、私（古田）が参加した。記念例会は4月2日（土）13:30から河内長野市立市民交流センター「キックス」で行われた。

第一部式典 司会は連絡主事の川良昌宏ワイズ、瀧本泰行会長の点鐘で開会した。ワイズソングが流れ、一同、心の中で歌ったのち、瀧本会長の挨拶、続いて、来賓から挨拶があった。来賓は、河内長野市長、市議会議長、大阪府議会議員と行政の方々が代理でなく参加され挨拶された。皆さん、「水辺クリーンアップ作戦」を代表する地域への奉仕活動への感謝とチャーター当初から中心的に活動されている白井ワイズに謝意を述べられた。行政のトップが代理でなく出席されることに、その活動がしっかりと為されている証と受け止めた。

さらに続いて、小川健一郎大阪 YMCA 総主事、大野勉アジア太平洋地域会長、大谷茂阪和部長からお祝いが述べられた。来賓挨拶の後、祝電・メッセージが披露され、その後、来賓の一人として横浜クラブ古田が紹介された。大阪堺 YMCA 地域リーダー会へ支援金贈呈、河内長野市子ども教育支援振興基金への寄付が行われ第一部は終了した。

第二部 余興・懇親 司会は堀川和彦ワイズ。先ず、ヲクイ鍵盤熟という3人グループによるバンド演奏があった。私にはよく判らなかつたが、大阪南部近辺で活動しているグループとのことであつた。

懇親は、コロナのため会食はないので、参加の阪和部各クラブからアピール、出席クラブ紹介があつた。出席は、来賓、西日本区15クラブ（内、熊本スピリットから福島貴志ワイズ、生駒春美ワイズ）からで合計70名ほどであつた。お礼の言葉を浜田尚美実行委員長が感極まり涙声で述べられ、YMCAの歌を心の中で歌い、福田智也次期会長の閉会点鐘で15:30終了した。

唯一のチャーターメンバー白井春夫ワイズは入院闘病中であつたが、この会の一週間前に退院でき、公子メネットに付き添われて車いすで参加された。市長初め、皆さんから白井さんへの賛辞が贈られ、改めて、そのお働きがワイズメンとして最高であつたことが示されていた。皆さんに声をかけられ、本当にうれしそうな白井ワイズの笑顔が印象的であつた。

『横浜中央 YMCA キックオフミーティングに出席して』

古賀 健一郎



4月2日（土）16時 横浜中央 YMCA キックオフミーティングがZoomにて開かれました。

横浜中央 YMCA の2022年度の新たなスタートにあたって、保育園、健康教育、専門学校、高齢者、アフタースクール、語学教育、オルタナティブ

の各事業の第一線で活躍されている若手職員の方々を中心に、それぞれの方々のさらなる連携を図る為に約60人が集まり、ワイズメンクラブの立場で出席した私にとっても、豊かな交わりの時となりました。

横浜中央 YMCA の大高聡館長が所信を述べられた。

(1) 2022年度開始にあたって【横浜 YMCA VISION 2034に基づく活動方針】として、①すべての子ども豊かな成長を支える機会とその環境作りの為に、②子育て子育てを地域で支える為に、③すべての人の健康づくりを支える機会とその環境作りの為に、④一人ひとりのライフステージを地域で支える為に、⑤積極的に社会参画するユース世代の人材育成の為に、⑥ユースの、ユースのための、ユースによる活動支援の為に、⑦持続可能な社会、人々が共生する社会の実現の為に、⑧社会課題を共に担うパートナーとの連携を強める為に……。上記の8つの点を、各事業に携わっている方々が共有し、互いに連携を図ってほしいとの考えが示された。

では、そうした活動方針の中で(2)【私たちはどんな働き方ができるのか?】を考えていきたい。YMCAの職員として求められていることは、「地域と共に」とか「ボランティアと共に」とか「共に生きる」とか「共に助け合う」という言葉が大切にされているYMCAにあつて、職員以外の人たちと関係作りをしながら意図的に働きかけて、共に担っていく視点をもって仕事することを心に留めたい。

(3) 山根（元）横浜 YMCA 総主事の言葉『右手に聖書（大事にしたい私たち理念、想い、願い、考え方をしっかりもつ）』『左手に電卓（事業として成り立つようにする）』『足元に新聞（目の前の社会、現実を見なさない）』を引用しながら、あるイベントを企画する具体例を示した。その企画に『想いがあるか?（右手に聖書）』『赤字にならないような予算となっているか?（左手に電卓）』『社会に求められているプログラムなのか?（足元に新聞）』の3つの視点を大切にほしい……。

この後、分団に分かれてのグループセッション（分かち合い）の時をもちました。テーマは『仕事に関する自身の考え方や価値観を知る』『未来のありたい自分の姿を想像してみる』『未来の自分のために今やるべきことを考える』の3つテーマで話されました。この分団に分かれての話し合いは、YMCA職員の方々（特にこれからのYMCAを担うの方々）の率直な考えや意見を伺うことができ、私にとって貴重で有意義な“分かち合い”の時となりました。

まさしく「今、私は、YMCA、「キリスト教青年会」との交わりの中いる」と実感しました。この若き青年たちの発言は『これから“温かみのある地域社会”が築かれていくのでは!』と大いに期待をもたせてくれました。

第二例会報告

古賀 健一郎

日時：4月28日（木）17:00～18:00（Zoom）

出席者：青木、伊藤、大高、古賀、古田

《今後の行事予定の確認》

《協議・報告事項》

(1) 横浜クラブ例会5月・6月

『5月の第1例会』

・『横浜 YMCA と横浜クラブのさらなる連携強化の模索 第5弾』

厚木 YMCA 健康福祉専門学校 校長 平岡 守氏

『6月の第1例会』

・横浜クラブ総会（7月）準備例会
 （2）湘南・沖縄部 研修会（5月28日）
 （趣旨）東日本区は任意団体から一般社団法人となった。そこで、本年度法人化されたことでこれから目指すことや注意すること等、さまざまな法人・団体を熟知されている前横浜YMCA 総主事田口努先生（現日本YMCA同盟総主事）をお迎えしご講演いただく。

（日時）5月28日 会場：横浜市舞岡地区センター（横浜YMCA 指定管理施設）

（内容）講演会 法人化で目指すこと（10時～11時）
 指定管理施設見学（11時～12時）

（講師）日本YMCA同盟総主事 田口努先生（前横浜YMCA 総主事）

（参加費） 無料

（3）ウクライナからの避難者への緊急献品の要請の件

★湘南・沖縄部担当主事阿部正伴様からウクライナからの避難を余儀なくされている方の受け入れ支援を、横浜市と横浜YMCAが連携して開始している旨連絡があった。

・横浜市はウクライナの『オデーサ市』と姉妹都市で、ウクライナの方々の受け入れと生活支援のため、『オール横浜支援パッケージ』として4月中旬より支援を開始した。

★今般横浜で暮らす親戚を頼って来日した親子の娘さん（6歳）がアートに興味を持っておられますが、画用紙やスケッチブック・絵具・色鉛筆・粘土等が準備できておりません。つきましては、アートに必要な用具をお持ちの方の緊急献品を呼び掛けている。

（4）クラブ総会（7月14日）資料準備—伊藤ワイズに準備統括をお願いした。

（5）ブリテン5月号編集計画(伊藤ワイズ4/28付けメール参照)



担当主事 青木 英幸

4月15日(金)、横浜YMCA 発祥の地である日本キリスト教会横浜海岸教会を会場にて、ウクライナ出身で、日本で活動している音楽家カテリーナさんをお招きし、ウクライナYMCA 緊急支援募金のための演奏会「民族楽器バンドウーラ～平和へのしらべ～」を開催しました。

演奏会を始めるにあたり、ウクライナで困難な状況にある人びとに想いを寄せ、黙とうを捧げました。ウクライナYMCAの動画を通して子どもやユースの目から見た今のウクライナの状況に触れたのち、3月にウクライナの首都キーウから日本へ避難したカテリーナさんのお母様マリヤさんからは、「チョルノービリ（チェルノブイリ）の原発事故と今回の軍事侵攻により、2度も故郷から逃げなければいけなくなり、これほどつらいことはない。日本の皆さんの優しさ・温かさに触れ、心から感謝している」とメッセージをいただきました。

カテリーナさんは、今のウクライナの状況などと重ね合わせて、ウクライナ民謡や日本の楽曲などアンコールも含め7曲を想いを込めて歌ってくださいました。「つらい日々が続いているが、歌と演奏によって平和を訴えていく」と想いを語り、ウクライナの今と平和に想いを馳せる一時となりました。



た。
 当日は、会場参加、オンライン視聴、スタッフを含む240名の参加があり、演奏会の参加費による収益と会場での募金をあわせて、369,756円(4月22日現在)の募金となりました。

5月28日(土)14:00～17:00に聖光学園ラムネホールをお借りし、横浜YMCA 会員総会を開催いたします。感染対策を取り、余裕のある会場での対面実施と、オンライン配信によるハイブリット形式での開催となります。主な内容は、2021年度の事業と決算報告、2022年度事業方針と予算、常議員の選出と会員表象となります。

5月例会プログラム

日時：5月12日(木) 18:30～20:30
 場所：Zoom 開催

司会：古田ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶・・・古賀会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・全員
3. 今月の聖句・・・秋元ワイズ
4. ゲスト・ビジターの紹介・・・古賀会長
5. 卓話

「横浜YMCAと横浜ワイズメンズクラブのさらなる連携強化の模索 第5弾『コロナ禍の横浜YMCA 留学生事業』」

厚木YMCA 健康福祉専門学校校長 平岡 守氏

6. ビジネス・報告・・・古賀会長

例会報告：古賀ワイズ

6月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
4-5	土		東日本区大会	Zoom
7	火	19:00	第94回Y-Y's協議会	Zoom
9	木	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
23	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
25	土	14:00	第3回部評議会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。

メール aoki_hideyuki@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080